



第18号

あいさつ

会長 原田 菊子

「結成50周年記念式典近づく」

平成28年を迎えました。川越更女会が昭和41年に結成されてからちょうど50周年にあたります。当時の社会はどんな状況だったのでしょうか。

昭和39年に東京オリンピックが開催され、戦後という時代を脱却し、高度経済成長期に入り日本は未来に向かって希望に燃えていました。

しかし、このような社会の動きに対応できず貧しさ故に犯罪や非行に走った人たちがいました。そこで、そのような人たちを救おうと立ち上がったのが更女の先輩たちです。

その意思を継いで50年、会員は更生保護と真剣に向き合い努力してきました。そして、ついに50周年を迎えました。

《結成50周年記念式典》

式典 平成28年10月21日

式場 ラ・ボア・ラクテ

内容 式典・演奏会・祝賀会
※50周年記念誌刊行

更生保護活動の動静

★日更女中央研修より

《社会貢献活動》

保護観察対象者に地域社会の活動を行わせることにより自己有用感、規範意識や社会性の向上を促し、更生の改善や再犯防止を図るものである。この活動



4地区交流会であいさつをする会長

は、保護観察官や保護司による指導、そして、更女会・BBS

会や活動先の協力により、福祉施設での介護保護活動・公共の場所での環境美化活動等を行う。

《更生保護サポートセンター》

保護司会を中心として、地域の関係機関・団体と連携しながら地域で更生保護活動を行うための拠点である。保護司会が市町村や公的機関の施設の一部を借用し、経験豊富な「企画調整保護司」が常駐して、地域との連携推進や保護司の処遇活動に對する支援を行う。

★県更女理事会より

《万引き高齢女性の更生支援》

さいたま地検の依頼を受けて万引きで逮捕された高齢女性が再犯しないで社会復帰できるよう全国に先駆けて取り組みを始めた。

(原田)

大学生

川越更女を来訪

卒業論文に貴更女会の活動を通して、更生保護についてを学びそれを書きたい、と昨年8月S大学4年生のY君から突然に連絡を受ける。役員会で協議した結果、若い人を育てるのも私

たちの務めと思い引き受けることになった。

9月の理事会に訪れた長身で爽やかな青年は熱心に会議の様子などを書き止めていた。10月の役員へのインタビューは、卒論のテーマに関連した「日常生活の不安」から始まった。いくつもの質問の中で、更女の活動がどのように役に立っているのか改めて考えてみた。

例えば、社会を明るくする運動が明確に認識されていない。第三者との話から、ハツと気付いたというのが、私たちの本音だった。この青年との出会いが私達の反省のきっかけとなる良い機会であったともいえる。

後日、卒業論文も無事に書け提出したとの嬉しい報告が届いた。前途ある青年に心からのエールを送りたい。



笑顔の優しいY君



川越更女会の会議に参加して

ふれあい福祉まつり

霞ヶ関地区 内藤 貴子

5月17日、快晴に恵まれ緑に囲まれた伊佐沼公園で、ふれあい福祉まつりが開催されました。「共に生きる福祉のまちづくり」を目指して、子どもからお年寄り、障害を持たれる方、皆一緒に参加しました。多くの方々が各部会の企画する催し物や体験等を楽しんでいらつしやる様子を見て、福祉に対する理解を深められたのではないかと思います。初めての参加でしたが、楽しい一日を過ごさせていただきました。



ふれあい福祉まつりの参加メンバー

社会を明るくする運動

第9地区 岸野 素子

7月25日連日記録的な猛暑の続く中、社明運動の一環であるうちわ配りに参加しました。川越包括支援センターから出発し更女からは12名、保護司、社協等の代表者と共に、午後2時から4時まで交代で行いました。先頭の男性がのぼりを持ち、百万灯祭りで賑わう連雀町の人通りの多い蓮馨寺付近を拠点に、行き交う人々に手渡しました。今年で65回という長期にわたる運動です。可愛いうちわで「犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域のチカラ」の一端に、微力ながら参加できたことに嬉しく思いました。これからも楽しく参加したいと思っています。

誕生会

高階地区 西村 雅子

4月14日小雨の中、川越駅に集合し、送迎バスで少年刑務所にに行きました。始めに所長室で所内の説明を受け、次に講堂に通

川越少年刑務所の諸行事

体育祭

第二地区 小川 道子



秋晴れに恵まれた11月4日6人で訪問。14チームが揃って入退場や体操する姿は、まるで日体大名物の集団行動さながらに圧巻だった。トラックでの競技が中心だったが、最後まで諦める事なく懸命に走る姿に、応援席からは温かい拍手が贈られた。競技に熱中しても全員がルールを守り、仲間を思いやる姿には心を打たれた。

開会式のラジオ体操では、原

田会長と所沢更女会長と一緒に体を動かしておられた。まるで彼らが社会復帰した時に「あなた方を見守る力は、どこにでもあるよ」と伝えているかのようだった。人の心に寄り添う事の難しさを、改めて考えさせられた貴重な一日となった。

西ブロック研修会

福原地区 村林ナツエ

10月2日、ふじみ野市「フクトピア」で開催され、川越市からは12名が参加しました。午前中は、さいたま保護観察所の松橋進一氏による講義とビデオを観賞しました。午後は「地域に寄り添う更女の力」をテーマに、ミニ集会の研修でした。私の班は「地域各種団体とよりよい連携をはかるには」という内容で話し合いました。小学校の催し物の補助的お手伝いをしている話、施設などの慰問をし、ハンドベルの演奏が喜ばれている話、愛の募金集めに一生懸命に取り組んでいる話等々、それぞれが各種団体と繋がりを持たれていて、更女の活動の趣旨を再認識した時間でした。

4 地区交流会で学んだこと

芳野地区 関根真奈美

私はまだ「更生保護女性会」の会員となり一年とたっていない。何をすべきかと手さぐりの中この「4 地区交流会」に参加した。講話「これからの更生保護女性会に期待すること」の中で、自分たちの役割りは地域で支え合う明るい社会づくりに向けて活動を行っていく事なのかと感じた。「居場所がない」「助けて」と言えない社会。その SOS を受け止めるための組織づくりの大切さ。そのためには、地域との連携、支援団体とのネットワークづくり、女性の自立や社会参加への後押し等やるべき事はたくさんある。しかし、その後のグループ討議の中で、各市ともそれぞれ問題をかかえていることも実情である。更生保護女性会を理解してもらえない、会員の減少、各種団体との連携のむずかしさ。だからこそ会員同士の間で共通理解、社会情勢の変化と共に組織づくりも変わっていかねければならない。今後自分たちが何ができるかを考えていきたい。



子育て支援

平成 27 年度埼玉県更生保護女性連盟からの指定であった子育て支援事業も、会員一致協力の基まよめの冊子を仕上げ終了しました。活動から分かった事。

①子育て支援のニーズ

その気になって見つけなければならない。取り組むことによって組織の活性化が図れる。また関係者からの評価や感謝の言葉があった。

②地区での子育て支援は、伝統的に取り組まれているものが多い。更女会は共に協力させていたでくことができた。

③地区の様子から、比較的に連携しやすい所と、難しい所がある。ミニ集会の形で 2 人、3 人からでも話し合いをして実践へと進めることを期待したい。

更女会が発展する為にも、地区活動の充実は大切、今後の検討課題にしたい。中でも公共施設との連携は、更女会にとって大きなステップとなった。

2 年目となる「川越市立博物館」初めての試みであった「こどもの城」両館長から川越更女会へのお礼とこれからの活躍を期待するお言葉を頂きました。

博物館活用事業

「昔の道具や暮らし」



炭火アイロンの実習
暮らしの工夫のお話を聞く

川越市立博物館

田中 信 館長からのお礼状

「実施後のアンケートから、昔の道具や暮らしについての話に限らず、子ども達の学習姿勢などにも助言いただき、親身に子ども達の教育に携わってくださる気持ちが大変ありがたかった。昔の暮らしのエピソードは勉強になった。子ども達への温かい指導に感謝などの感想をいただきました。来年度も、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。略儀ながら書中をもってお礼申し上げます」

小学校 3 年生を対象に行われている博物館活用事業を川越更女会は、2 年前より学習アドバイザーとしてその事業に協力させて頂いていただいています。今後も更女会の子育て支援事業として位置付け、子どもたちの成長を見守って行きたいと思っています。

世代間交流事業

「新春お餅つき大会&昔のあそび」



こどもの城
山口健一館長への
インタビューから

児童館には子どもだけではなく、子どもから大人まで幅広い年齢の方々が来てくれる「きっかけ」になればと考え、この事業を開催しました。餅つきや昔の遊びをする事で様々な世代の皆さんに関わって頂き、子ども達にいろいろな体験をさせたいという思いもありました。餅つきをするにあたっては、前日よりもち米をといだり、水加減をして蒸かすという作業を受けて頂き助かりました。大成功!! 人生経験豊富な更女会の方々に、昔の遊びを実際に教えてもらえて、子ども達も本当に楽しそうでした。来年も是非、よろしくお願ひします。



お手玉や折り紙であそぶ母と子

施設訪問 「玉淀園・さんあい」

霞ヶ関地区 水村 清美

私達は去る



熱心に講話を聞く

10月5日に乳児院「玉淀園」と児童養護施設「さんあい」を訪問致しました。自然に恵まれた環境の中の建物は、子ども達の

の生活を中心に職員からも眼が届くように設計されていました。「玉淀園」では夜勤で15分毎に見廻り、事故を未然に防いでおられるとの事、頭が下がる思いでした。施設長初め、職員の献身的な愛を感じました。「さんあい」は6名ずつの部屋割制で寮母を中心に料理も担当しています。又、地域との交流にも力を入れておられました。職員の温かい愛情に包まれた子ども達は幸福だなと思いつながら、お世話になった方



達への思いを忘れずに大きくなって欲しいなと思いい施設を後にしました。

風のフーラが運んでくれたもの

新年はじめの更女会理事会の席で、お年玉としてみんなにプレゼントされた一冊。原田会長からである。原田菊子文に美しい絵が副えられた素敵な絵本『風のフーラ』。朝日山から様々な風を送ってくれました。その場面の一齣ひとこまに野山の自然が見えます。人々の心の動きがわかります。それは、とつても温かくて優しいのです。子育てには、これで終わりという言葉葉はありません。ヒントが沢山隠れている『風のフーラ』を通して、原田会長の見つければある〴〵の子育て支援。私たち更女会の愛読書としての学びがますます深まってゆきそうです。

(田邊)

風のフーラのさし絵より



受賞おめでとう

『第六十二回埼玉県更生保護大会』

平成二十七年十一月十三日(金)

さいたま市民会館

おおみや大ホールにて

○さいたま保護観察所

所長感謝状

井上 順子

藤崎 淑子

今給黎 克子

金子 真弓

○埼玉県更生保護女性連盟

会長表彰

野崎 昭子

松平 静江

西村 雅子

芝波田 静香

岡田 育恵

田中 敏枝

浜村 幾代



小学校へ愛の図書費贈呈

平成27年9月7日(月)武蔵野小、大塚小、新宿小、高階小、高階

北小、の5校へ原田会長と地元理事が学校訪問をして贈呈。いずれの小学校からも喜びの声を頂きました。特に図書委員5年生、6年生の皆さんからのお礼状は感激です。「本が苦手であり読みまなかつたけどこれからは読みます」「自分たちで選んだ本なので大切にします」「ありがとうございました」と幾重にも。

文字離れが心配されている昨今、子どもたちに読むことの楽しさを伝えたい、良い本に出会ってほしい。図書費贈呈を続けることが更女会の大きな目標になっていきます。

愛の募金

募金総額

746,250円

県更女連盟

186,000円

地区活動費

560,250円

上記の通りご報告致します。

会計 野崎 昭子
井上 順子

編集後記

小中学校への図書費贈呈や愛の募金運動は、川越更女会にとつての歴史を刻む活動です。また27年度は、「子育て支援地域活動」の指定地区に選ばれ、各地区、特色を生かした活動に一丸となつて取り組み、50周年を迎えるにふさわしい年となりました。その報告書の完成を心待ちにしながら「更女たより」の編集に進路を変え、あわただしくも無事に発行することができました。原稿を寄せてくださいました皆様のご協力に心より感謝申し上げます。(水井)

(広報委員 田邊・水井・関根)